

大槻文彦 おつひ 國語學者、文學博士。弘化四年十一月十五日江戸生

れ、昭和二年一月十七日没（八四七一九六）。諱清復、字士復、幼名復

三郎。號わなのやりのあまじ、わなのや主人、假名の舎、叔陽、平新吉、

平文彦、復軒、復軒學人、復軒居士、復軒道人、秋津居士、雨松軒主

人、黒石齋等。仙臺藩儒大槻磐溪の二男。漢學、洋學を修め、明治五

年文部省出任。のち京城師範學校校長、文部省國語調査委員會主査、

臨時假名遣調査委員會委員等歴任。四十四年帝國學士院會員。命い

ゝ近代の國語辭書『言海』を著す。

編著書、大槻磐溪著『奇文欣賞』全四冊（清復石、清修同校、明治

元年藹月序、京都・竹荷樓）、『萬國史略』（卷二）皇國之部』（明治

八年十一月錦森堂）、千葉文爾纂譯『露國政治史』（校止、明治十

二年十月九家善七出版）、新井白石著『余覽異言』全二冊（校、明治十

四年七月、千白白石社）、井上哲次郎抄譯『培因心理新説』全二冊（校

訂、明治十五年九月同盟舎）、中等『日本文典』（明治二十年一月九

日自刊、大阪・三木佐助發賣）、『廣日本文典』（芝原義夫校、明治

三十年一月九日自刊、大阪・三木佐助發賣。同・吉川半七發賣）、『伊

達行朝勤王事歴一附載男宗遠孫政京曾孫氏宗玄孫持宗』全二冊（明治二十二年七月

十八日作並清亮刊、吉川半七發賣）、『伊達政宗南蠻通信事略』（明

治二十四年十月、二十五日作並清亮刊。再刊一二版。昭和二年二月五日

圖南講藏版、京城・光明寺）、清修如電口授『磐溪事略』（内題「磐

溪先生事略」清復文彦名、補言、成雄清二訂、明治四十一年六月、二十六日

大槻茂雄刊）、『近世史談原文集』（明治四十二年八月十五日嵩山

房）、『佐藤素拙傳』（明治四十五年一月佐藤素拙均刊）、『萬葉集修

身歌』(明治四十五年八月、二十七日付刊、金港堂書籍株式會社)、
『大海』全四卷(第一卷・昭和七年十月、二十八日、第二卷・八年五月、
十八日、第三卷・九年八月、二日、第四卷・十年九月十五日富士房)、

『復讐旅行記』(大槻茂雄校訂、昭和十二年八月十五日富士房「富士
房百科文庫」)等。